

安全な竹刀で、安全な剣道を ～竹刀指導の方向性～

- ・竹刀に関する細かい規定は剣道試合・審判規則や細則運営要領の手引きにも詳しく書かれていない。そうした部分は、不文律ながらもある程度の統一見解がある。しかし、剣道をやられていらっしゃる顧問の先生方は指導にご不便を感じていらっしゃると思われる。そんな時に指導の方向性となるものを「中体連 神奈川」として作成し、安全な中体連行事を行うための一助としていきたい。

竹刀…方向性：作成されて時間の経っていない市販品（検定シール付きのものが望ましい）を買った状態を維持しておくことが、強度の面から見て安全性が確保されている。その状態から、強度が下がる変化をしているものは安全性が低い

- ・破損（折れていない割れはない…外表はもちろん、分解して内側も定期的に確認。）
- ・ささくれ（表面を指で触った時になめらかな状態にする。）
- ・竹刀を合わせるとき、節がおおきくずれない方が望ましい。（竹刀強度の確保の観点）
※竹刀購入時に節を合わせて買うなどの工夫があっても良い。
- ・乾燥期には油を塗る手入れをすると良い。（油や蠟は塗りすぎないこと。）
- ・カーボン竹刀も、定期的に手入れをする。
- ・小判形や八角形なども試合に使える。
- ・中に異物を入れてはいけない。
- ・竹刀に大きな隙間がないようにする。一つの目安として500円玉の厚さより隙間が広い場合は、ひもなどで縛り、軽く湿らせて数日おいて隙間を締ましよう。
- ・男女共通114cm以内（完成品）男子440g以上（完成品） 女子400g以上（完成品）

つる

- ・つるはゆるんでいない。
※引っ張りの強さに規定はないが、中結いから柄までの間のつるにおいて、指をその間に入れ込んだとき2本重ねて入る隙間が空くようなら「緩い」と多くの人が判断する。指1本入れたときに強く締め付けられるようなら、「張りすぎ」である。
- ・つるの色は、規定されていないが長い期間使われてきた紫・白・黄色が望ましい。最近では白が多い。
- ・つるのあまりは、切断する。

中結

- ・中結がゆるんでいない。（試合中に回転しないように、手で軽く回してみても回らない）
- ・中結のあまりは切断する。
- ・中結は、全体の1/4。（刃部の1/3では柄の長さにより位置が変わるため。）
114cmの竹刀では22.8cm～34.2cm（規定：全長の20%±5%）→ 先端から30cm前後が望ましい

柄革

- ・柄革に記名（学校名・個人名）する。
- ・柄革が破れていないか確認し、竹刀と革の間に緩みがないように。（湿らせて乾燥させると締まる）
- ・柄頭にあまりがないように最後まで竹をいれる。
- ・長さに規定はないが、体の大きさにあった長さにする。
- ・滑り止めがついているものは試合に使えない。
- ・柄革に限らず、革製品なので剣道具は手入れをし、衛生にしておくように指導したい。

先革

- ・先革が破れていないこと。先端に隙間がないこと。
- ・先端部の規定の太さは先革の、中心付近を測定する。竹刀の対辺方向を測定する。
- ・先革の長さは50mm以上あること。

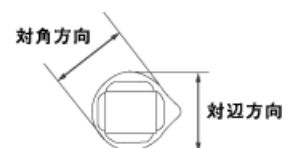


図7. 剣先の直径測定例（完成品）

鍔

- ・白、革色のみ 黒は不可。（相手側の色が白、革色ならば問題ない。最近多いので稽古中から注意したい。）
- ・90mm以下の円盤状で、最後まではまること。